

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

I～IIIの読解問題の過去5年の総語数は「2,112→2,098→2,056→2,223→2,112」で大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

大問数・設問数・設問構成ともに、20年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式が続いている。今回は物語調の文章が出題され、語数も2倍以上に増えた。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	(A)「気候変動に対する人類の無関心」 (229 words) (B)「混同されやすい“イギリス”の呼び名」 (272 words)	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈にも注意して解いていく必要がある。選択肢には難単語も含まれるが、消去法で対応できるようになっている。	標準
II	読解総合	(A)「祖先の食生活は本当に理想的か？」 (199 words) (B)「利潤をめぐる労使の対立」 (237 words) (C)「レミニセンス・バンクについて」 (553 words)	内容一致問題、内容不一致問題 パラグラフごとの要点を整理しながら読み進めていく力が問われている。(A)・(B)・(C)すべてが平易な文章で読みやすく、選択肢も紛らわしいものがなかったため、総じて解きやすかったと思われる。設問が各段落と対応しているのが特徴である。	やや易
III	読解総合	「科学的知識と哲学的知識」 (622 words)	空所への文補充問題 指示語や接続表現のほかに、具体例として挙げられているエピソードも空所を埋めるヒントになる。	標準
IV	その他	会話文 スマートフォンをめぐる二人の会話	空所補充問題 7つの空所に対して選択肢は13と多い。空所に入れるべき品詞や前後の文脈に着目することで、検討すべき選択肢は容易に絞れるが、受験生にとって難しい表現が含まれている。	標準
V	英作文	「カリスマを叩きたくない人間の心理」 (585 words)	5つのパラグラフからなる文章の一文要約 物語調の文章が出題され、長さも例年の2倍以上あり、要点をまとめるのに苦労したと思われる。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

長文読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要になる。設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。一文要約の問題では、英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。